

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第120号



ほほえみは、月一回発行なので120号ということは10年間ということですね。第一号は2010年12月1日発行でした。10年間の間には、2011年3月に一度だけ号外も出したことがあります。毎号、新しいテーマで情報発信してきたので、よくこれだけテーマを見つけることができたと驚いています。何を書くかは書き始めるまで決まっていないことが多いのですが、読者の皆様があればこそ、何とか内容も見つけてこられた気がします。拙い文章ですが、これからも待ち時間の間の暇つぶしにでも読んでいただければと思います。

グretaさんのカウンター・パンチ

いつもは、あまり政治的な話題は取り上げませんが、ほほえみでは、2016年10月に4年前のアメリカ大統領選挙を取り上げたことがあります。前回選挙の一か月前までは、クリントン候補が優勢でした。テレビ討論会で、両候補が握手しなかったことが話題でした。ニュースレターで書いたのは、トランプ候補が握手を拒否しても、クリントン候補が気の利いたジョークが言えれば、ほぼ大統領選に勝ただろうということです。実際には、両者とも、ジョークどころではありませんでしたが。

今回の、アメリカ大統領選挙は、低レベルな誹謗中傷合戦ばかりで見るべきところもなかったと思います。ネガティブ・キャンペーンは、選挙の常套手段と言われていました。しかし、度が過ぎたようですね。個人的には、もっとも興味深かったのは、グretaさんが選挙後にTwitterで発信した以下の文章です。

「ホント、バカげてる。ドナルドはアンガーマネジメント(怒りを制御すること)に取り組んで、友だちと古き良き映画でも見に行ったらいい！ 落ち着けドナルド、落ち着け！」

元は、トランプ大統領がグretaさんに対して書いたものを、名前を入れ替えただけなのですが、まさに、トランプ大統領の口を封じたのは、このTwitterでしょう。これを読んだ瞬間に、選挙に不正があると訴える戦略は、もはや世人に受け容れられないだろうと感じました。地球温暖化に関して根拠をもって発言していたグretaさんに対して、トランプ大統領の選挙不正発言は、何ら根拠を示さない感情的な発言であることが誰の目にも明らかです。こういうことに間しては、法廷論争のような言葉ではなくジョーク、ユーモアが効果的なのです。因みに、この報道後は、トランプ大統領は報道陣の前に現れておらず、ゴルフをしています。

ニュースで、選挙後の会見の場にグretaさんがいたことがわかりましたが、恐らく、このTwitterは思い付きではなく、十分にその効果を計算して用意されたものだと思います。しかし、トランプ大統領の自分自身の発言が、このような形で選挙に決着をつけることとなろうとは、シェークスピア張りのドラマティック・アイロニーですね。



トラスツズマブ デルクステカンの適用について

胃癌のうち、HER2陽性という一部の胃癌に適用となる薬剤です。HER2蛋白が発現している胃癌のみに適応となりますが、その理由は細胞表面に結合するHER2抗体と抗がん剤であるイリノテカンを結合した特殊な薬剤のためです。このカテゴリーの胃癌では、一次治療が、トラスツズマブ併用の化学療法であり、今回の薬剤は、二次治療以降で使えることになっています。状態の良い方での臨床試験のデータですが、奏効率は比較的良好である反面、間質性肺炎の発症が多く、リスクも伴う薬剤とされています。



芋ほり

庭の小さなスペースで、野菜を育てていますが、今年はメインがサツマイモでした。以前は、盛岡市の家庭菜園を借りていたこともあります。結構な広さがあり、草むしりなど週一回の世話では無理がある状況でした。

家庭で育てるなら、サツマイモ、8株程度で十分かもしれません。スーパーには大きさの揃ったお芋が売られていますが、育ててみるとサイズが様々で、個性があって面白いと気づきました。サツマイモは収穫してから食べるまでに熟成期間が必要なので、来月にでも食べてみることにしますが、折角なので、ダッチ・オーブンで焼いてみようかと思っています。



MEMO

11月のがん化学療法科の予定

- | | |
|--------|------------|
| 11月 3日 | 文化の日 |
| 11月10日 | 診療応援(工藤先生) |
| 11月17日 | 診療応援(平出先生) |
| 11月23日 | 勤労感謝の日 |
| 11月24日 | 診療応援(工藤先生) |



ヒロシのぼっちキャンプという番組があり、焚火をしたいなと思いながら観ています。